

## 第9回登別市総合計画第3期基本計画市民検討委員会育み部会議事録

- ◆開催日時 平成26年10月20日（月） 17:30～19:00
- ◆開催場所 第1委員会室
- ◆出席部会員 部会長 安宅 錦也  
副部会長 川村 正勝  
部会員 仲川 弘誓  
合田 美津子  
磯田 大治  
佐藤 史彦（庁内検討委員会 部会長）  
【教育部次長】  
千葉 浩樹（庁内検討委員会 副部会長）  
【教育部社会教育G総括主幹】
- ◆欠席部会員 部会員 佐藤 文子
- ◆事務局 上野総務部企画調整G企画主幹  
西川原総務部企画調整G主査
- ◆議題 「第5章 豊かな個性と人間性を育むまち」について

### 〈部会長〉

それでは、第9回育み部会を始めたいと思います。  
まず、事務局から前回の説明をお願いします。

### 〈事務局〉

前回は、第3節の「市民の個性ある文化活動と文化を育む」の中で、登別の文化について皆さんからご意見をいただきました。

そこで出たものとしては、体系図の各項目に肉付けをして重点化を図りながら目玉になる部分をうまくPRしていくという内容で、具体的に何をするかということも含めて、前回の部分をもう少し掘り下げていこうということだったと思います。

前回お休みだった方もいらっしゃいますので、今後10年間を見据えたとき、この第3節の内容が新しい基本計画として足りているか、もし足りないとすれば何を加えればいいのか、についてご意見があればいただいてもよろしいでしょうか。

### 〈副部会長〉

サークル活動を行う上での発表の場として、市民会館や公民館などを利用していますが、そういう施設の充実を図ることも必要だと思います。

それと、サークル活動についてはもっとPRが必要だと感じています。

例えば、広報紙でのサークル活動や団体の紹介があれば、多くの人に知ってもらいことができ、それが興味に繋がって活動人口の増加に結び付くのではないかと思います。

#### 〈事務局〉

人づくりについてはどうでしょうか。

あと、年齢構成はどのようなになっていますか。

#### 〈副部長〉

全体としては年齢層が高く、若い人は多くないですね。新しいサークルにしても年齢の高い方のサークルが増えています。

#### 〈部会員〉

加盟団体はどのくらいありますか。

#### 〈副部長〉

36団体で、横ばい状態ですね。

#### 〈事務局〉

若い人たちに文化を継承していくには、どうすればいいでしょうか。

#### 〈副部長〉

我々の活動について、「知らない、興味がない」という人たちに対し、如何にして「知ってもらい、興味を持ってもらう」か、ということが重要だと思います。

それにはまず、そういう人たちに足を運んでもらって、「触れてもらい、体験してもらう」ことが大切で、それが興味に繋がって将来的に活動人口の増加になれば、結果的に継承されることになるのではないかと思います。

興味があっても、知る機会がないために参加できないという人も沢山いるので、様々な媒体を通じてPRしていく取り組みが重要になるのではないかと思います。

#### 〈部長〉

前回の部会でも話が出たのですが、今後の10年を考えると高齢化がますます進んでいくと思いますが、後継者というものについてはどのようにお考えですか。

人材の発掘や引継ぎはうまく進んでいるのでしょうか。

#### 〈副部長〉

残念ですが、新しい人材の発掘や引継ぎについてはなかなか難しいものがあり、こ

のままでは衰退化しかねないという危機感を持っています。

〈部会員〉

登別の文化の中で、これだけは残したいというものは何でしょうか。

〈部会員〉

前回も出ましたが、区域や学校で行われている熊舞でしょうかね

新しい文化の創造も必要かもしれませんが、まずは後継者がいて引継ぎの体制がしっかりしている団体等の活動について支援していくことが大切だと思います。

また、衰退・縮小しているものについては、自助努力を促すとともに、どのようなかたちで支援できるかについても検討していく必要があるのではないかと思います。

〈部会員〉

まずは、伝承すべき文化というものを整理して、それを地域が共通の認識を持って保存していく、という取り組みを進めていくことが重要なのではないのでしょうか。

〈部会員〉

ただ、趣味の分野については、自助努力で何とかしなければいけないと思いますし、そこで取り組みが行われなければ、将来的に衰退していくのはやむを得ない事だと思っています。

行政に依存するのではなく、これからは自立的な組織運営も必要ではないかと思えますし、NPOのような組織がこうした役割を担っていくべきだと思います。

市民が必要だと立ち上げた組織に対しては、市も支援という形で応えるべきではないかと思えますし、既存の組織を潰さないようにするという従来のやり方では、うまくいかないのではないかと思います。

〈部会員〉

趣味的な文化については、せっかく市民活動センターがあるのですから、NPOが中心となって団体を取りまとめて、情報機器やネットワークを使って情報発信すればいいのではないかと思います。10年先のことを考えると必要ではないのでしょうか。

〈部会員〉

発行紙では、翌月の情報をほぼ網羅したものを掲載しておりまして、それを見てもらえばその地域の翌月のサークル活動が分かるようになっています。

発行紙は、町内会に加入している方であれば、戸別に配布されるか回覧で回ってくるという形になっています。

〈部会員〉

回覧だとメモを取ったりしなければならぬので、戸別配布かホームページに掲載する方法が良いのではないかと思います。

〈事務局〉

その発行紙はWEB上で閲覧できるのですか。

〈部会員〉

できます。現在は、WEBと紙、あとはFMラジオでもPRしています。

〈部会員〉

そういう情報を得るにはどうすればいいのか、ということが市民には分からないので、まだまだアピールする必要があると思います。

市のホームページを見ればリンクされており、そこから飛ぶことはできるのですが、市のホームページにリンクされているということ自体、市民は知らないのです。

〈部会員〉

文化系の講座についても、参加者がいない日もあったりするので見直しが必要だと考えており、この部分と認知度の向上について、次年度に向け計画を立てているところではあります。

〈事務局〉

他のまちとの交流についてはどうですか。

〈部会員〉

期を見て交流を行っています。

〈事務局〉

そこからの連携や協力の拡大によって、活動の活性化がもたらされると思うのですがどうなのでしょう。

〈部会員〉

スポーツだとスムーズに行くのですが、文化系はなかなか難しいですね。

〈部会員〉

広報紙にコーナーを作って、月に一度でも紹介するといいいのではないかと思います。

### 〈事務局〉

コーナーはあります。月締めの関係上タイムラグがあって最新の情報とはなりません。

あと、通信紙ですが、町内会の回覧ではたくさんの配布物に埋もれてしまって、よく見ないまま次の家に回ってしまうこともあるので、見てもらいたい人が知らないまま終わってしまうことも多いのではないのでしょうか。

### 〈部会員〉

町内会への配布には手間もかかっているので、費用対効果の面で再考する必要があるそうですね。

### 〈部会員〉

のぼりん自体の市民の認知度はどうなのでしょう。

何をやる所かよく分からず、市民活動センターとは別のものだと思っていないのでしょうか。PRの効果は上がっているのでしょうか。

### 〈部会員〉

より効果が上がるよう方法を模索しながら、地道にPRを積み重ねていくことが重要だと思っています。

お子さんも参加できるような体験型のものを増やせるといいなと思います。

### 〈部会員〉

市民会館と連携したイベントも行うべきではないのでしょうか。

### 〈部会員〉

今年から、指導者が見つからない場合の協力として、こちらの参加団体のリストを共有したりしています。

### 〈部会員〉

それはいいことです。どんどん進めてほしいですね。

### 〈副部長〉

あと、練習や発表の場所である施設が、団体間の予約の取り合いとなり、使いたいときになかなか使えないということもありますね。

### 〈部会員〉

使用状況をホームページで閲覧することはできますか。

#### 〈市庁内部会副部長〉

文化・スポーツ財団が管理している施設は閲覧できますが、市の施設すべての予約状況を確認できるものはないですね。

#### 〈部会員〉

長年活動している団体などがルーチンのように貸館を押さえていて、新規参入の団体がなかなか使用できないということはあるようですね。

#### 〈部会員〉

既得権化してしまっているということでしょうか。

#### 〈部会員〉

市民活動の支援でもある訳ですから、のぼりに聞くとそういう貸館情報を教えてもらえるような仕組みがあるといいですね。

#### 〈部会員〉

全町内会館の状況把握となると厳しいですが、そういう中間支援的なサービスは一部で行っていますので、それを発展させることは可能だと思います。

#### 〈事務局〉

ここでのポイントを整理したいのですがいかがでしょうか。

#### 〈部会長〉

例えば、今あるネイチャーセンターやカントレラなど他にもいろいろありますので、整理する必要があると思います。

#### 〈副部長〉

登別から発信できる文化は何なのかということも5年、10年かけて探していく中で、継承についても図られるような仕組みを作っていく必要があるのだと思います。

#### 〈部会員〉

先日太鼓の公演を見る機会がありまして、その中のある方が、この太鼓の生みの親は登別で、我々のはそこから派生したものだと言っていたのが非常に印象的でした。

先人が開いた芸能・文化を守っていくという取り組みが、このまちには欠けているのではないかと思います。

#### 〈部会員〉

実は、使用料が減免されている団体の比率が非常に高くなっておりまして、他では

もっと高くなっていると聞いています。

普通に利用料を払っている団体や個人との間に差があるので、不公平感が生じないよう自立を促すようなことも必要なのかなと思います。

あと、例えば熊舞を必ず後世に残すと決めたのなら、その文化の継承に対して人・もの・金が投じられるという仕組みを作ったほうがいいのではないかと思います。

#### 〈部会長〉

市教委ではそうした継承文化というもののリストアップは行っているのですか。

#### 〈市庁内部会副部会長〉

登別の文化という冊子がありまして、その中の継承すべき文化という項目に熊舞があります。

指定されている文化が消えると、文化審議会という組織が事情聴取を行い、リストから落とすかどうかの判断をするという仕組みになっています。

#### 〈部会員〉

その組織はどういうメンバー構成ですか。

#### 〈市庁内部会副部会長〉

主なメンバーとしては、文化協会の方や学校の先生などですね。

#### 〈部会員〉

指定したものについては何らかの支援が受けられるのですか。

#### 〈市庁内部会副部会長〉

それはありません。

守るべきとして指定はしますが、それを支援するという形にはなっていません。

#### 〈部会員〉

少なくとも10年に一度くらいは、それを見直す話し合いが行われるべきだと思いますね。

#### 〈部会員〉

ただ、市民がその伝統文化を知らなければ、市民の側から保存すべきという声は上がってこないのではないかと思います。

一部の地域の人たちだけが知っているのではなく、広く一般の市民にも知ってもらえるよう努力すべきだと思います。

### 〈部会員〉

例えば、伝統文化を守りましょうというタイトルで、そのためには市民の中でどのような位置付けにして継承していけばいいのか、というような話し合いの場を作るとか、関係者だけでなく、いつでも誰でも気軽に参加することができるということをPRするとか、そうした取り組みを行っていくことが必要ではないかと思えます。

そういう体制を作っていかなければ、継承していくことは難しくなるのではないかと思えます。

どの団体も自分の活動だけで精一杯というのが現状だと思いますから。

### 〈部会員〉

市民の数パーセントでもいいですから、登別の伝承文化とはこういうもので、こういう歴史があるのだ、ということをしかりと伝えることができる人がいれば、変わっていくのではないかと思えますが。

数パーセントであっても、そういうことを言える環境を作っていくことが必要ですね。

### 〈部会員〉

例えば、マイプラン講座についての情報をのぼりんがもらい、それをのぼりんがPRしていくというやり方もありますよね。

そうして互いに交流することにより、人材の有効活用やまちの活性化にも繋がっていくと思えますのでぜひやってもらいたいですね。マイプラン講座は知らない人も多いと思えますので。

### 〈市庁内部会副部長〉

そうですね。マイプラン講座は、小さなサークルを支援するための制度ですから、ぜひ積極的に利用してほしいと思えます。

ただ、今の制度は大きな団体も利用できるような内容なので、その部分の見直しを行っているところです。

### 〈部会員〉

この施策は今後もぜひ継続してほしいと思えます。

### 〈部会長〉

それでは、次の2「アイヌ文化の振興」に入りたいと思えます。

### 〈部会員〉

今度は、白老との関係も出てきますし、私のところの会報でもアイヌのことをもっと知ってもらうために、写真を掲載するなどしております。



そのこと自体は個人的な小さな取り組みではありますが、一人の市民としてできることはやっているつもりです。

それと、アイヌの人たちの人権と文化について、やはり知里さんは登別の財産だと思いますし、世界に発信できる登別の売りの一つになると思っています。

市はもっと評価して力を入れるべきだと思いますね。

#### 〈部会長〉

今度、白老町で国立のアイヌ文化博物館が事業化されるようですし、それと連携した取り組みを模索するという必要ではないかと思います。

#### 〈部会員〉

観光とも連動できますし、相乗効果によって知名度の向上も期待できると思います。

#### 〈部会員〉

ウタリ協会では、純粋なアイヌの人たちの人数について把握しているのでしょうか。

#### 〈市庁内部会部会長〉

ある程度は把握していると思いますが。

#### 〈部会員〉

どんどん薄くなっていく中で、その人たちがアイヌの伝統や文化を継承してくれるのかということも心配ですね。

#### 〈部会員〉

民族の血と誇りを守りながら文化を継承していくためには、やはり社会的な支えが必要ですし、自助努力だけでは限界があると思いますね。

#### 〈市庁内部会部会長〉

もともと、登別市と白老町の間には観光連絡協議会というものがあって、一体化した動きを進めていくことになっていますので、そうした動きがあればテーブルに載ってくると思います。

#### 〈部会長〉

では、時間も迫ってきましたが、今日は次の第4章「スポーツを通じて健康で活力ある生活をめざす」に少し触れて終わりたいと思います。

これについて何かご意見等ございますか。

### 〈部会員〉

まず、スポーツと健康という大きな括りがありまして、スポーツは自主的に活動して楽しむものと言えますが、一方の健康増進についてはそうではなく、健康であるために努力しなさいという面が強く打ち出されています。

スポーツは文科省となり、健康増進については厚労省となる訳ですが、全国会議の中では、その両面をうまく進めていくことができるのが、総合型地域スポーツクラブの考え方ではないかと言われているようです。

我々も若い世代の職員を雇用して、健康運動実践指導者としていますが、将来的には運動指導士まで育てながら、保健福祉部で行っている障がい者のスポーツ関係まで広く網羅して、自分たちの理念である「多くの市民が健康で笑顔あふれる社会を作っていく」ということを進めていきたいと思っています。

そのためには人はもちろんですが、ある程度の場所を確保するというのも必要となりまして、そのときに我々も他の団体と同じように予約の奪い合いに参加しなければならないという苦しさがあります。

施設使用料の減免についても、境界線が曖昧なところもあると思いますので、市民から見て公平性を疑われることのないよう注意を払うべきではないかと思います。

希望としては、自立しようとしている団体や人に対しては手厚くしてほしいですし、やる気のない人にお金を投じてほしくないですね。

補助についても、団体ではなく事業への補助としたほうが自立を促すことに繋がると思います。

あと、例えば同じ内容の依頼であっても、市の違う部署からそれぞれ来たりすることがあるので、こうしたものについては整理して一本化できるのではないかと思います。

その方が予算も半分で済むと思いますし、施策でその部分が改善されると非常にやりやすくなると思うのですが。

### 〈部会員〉

市民自治の推進には団体の自立が絶対に必要だと思いますし、自助努力をしない団体がある程度淘汰されるのは仕方がないことではないでしょうか。

その中から新しいものも出てくると思います。

### 〈部会員〉

団体の運営などについて助言するアドバイザーのような人を紹介してもらえるシステムがあるといいですね。

### 〈部会員〉

様々な経験やノウハウを持った人たちが連携して、市民に指導やアドバイスができる組織が市内に一つでもあるといいですね。

#### 〈部会員〉

第4節のスポーツの部分は、第1章の健康のところとうまくリンクする必要があると思います。

そこで出てくる生活習慣病の予防には運動やスポーツが必須となってきますが、このままではその部分との繋がりが見えなくなってしまうので、リンクが必要です。

そこをしっかりと行わないと超高齢化社会を乗り切っていけませんから。

#### 〈事務局〉

リンケージについての表現はいろいろありますし、提言書に盛り込むこともできます。

#### 〈部会長〉

では、そろそろ時間となりましたので施設等は次回にしたいと思います。

#### 〈事務局〉

今回は、11月12日の水曜日と11月20日の木曜日、時間は17時30分からで、場所は第1委員会室を予定しておりますのでよろしくお願いいたします。